



## 平成23年度「命の尊厳を涵養する食農フィールド科学演習」が開講されました

### 1. 本授業開講の趣旨

広島大学大学院生物圏科学研究科附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター西条ステーション（農場）が平成21年度「教育関係共同利用拠点」に認定されたことを受け(認定期間：平成22年6月10日～平成27年3月31日)、教育拠点活動の一環として平成23年度9月6日（火）～9月9日（金）にかけて、非農学系の学部学生を対象に「命の尊厳を涵養する食農フィールド科学演習」を開講しました。

本演習は農学の専門知識を有していない学生が、教育共同利用拠点の認定を受けた本農場(附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター西条ステーション)をはじめとした食品製造実験実習棟や精密実験圃場において、草と家畜と土の循環の中でミルクや肉を生産し食品に加工していく過程を体験的に学ぶことで、他の生き物の命によって生かされている人間の存在について、「食」とその源となる「命」との関わりについてより深く考えることを目指した内容で構成されています。

### 2. 受講生

受講者の所属大学および学部、学科等別の人数は以下の通りでした（アイウエオ順）。

大学等	所属		受講者数
呉工業高等専門学校	電気情報工学科		5名
県立広島大学	生命環境学部	環境科学科	1名
広島経済大学	経済学部	経済学科	3名
		国際地域経済学科	2名
		経営学科	3名
広島国際大学	工学部	建築学科	2名
広島女学院大学	生活科学部	生活デザイン・情報学科	3名
安田女子大学	家政学部	管理栄養学科	4名
山口県立大学	看護栄養学部	栄養学科	6名
	国際化学部	国際文化学科	1名
福山大学	生命工学部	生物工学科	3名
		海洋生物科学科	1名
受講者数（合計）			35名

### 3. 講義および実習内容

詳細は演習スケジュール [PDE](#)ファイルをご覧ください（内容は平成23年度の案内と同じものです）。

### 4. 演習風景

本演習では、受講生に対して事前に発表会での発表課題（本年度は『演習での体験を通して私たちの毎日の「食」について考える』）を提示し、受講生は様々な大学の学生で構成された班ごとに分かれて日々の演習内容をふまえた意見交換を行いました。最終日には班ごとにプレゼンテーションに挑みました。

	
<p>&lt;授業ガイダンス&gt; はじめに実習に関するガイダンスが行われました。</p>	<p>&lt;子ウシの哺乳&gt; 職員から子牛への哺乳方法について説明を受け、実際にバケツや専用哺乳瓶でミルクを飲ませました。</p>
	
<p>&lt;子豚の体重測定&gt; 子豚の生育状態を記録するために体重測定を行いました。</p>	<p>&lt;羊の薬浴&gt; ヒツジの世話の一環として1頭1頭を薬浴槽に追い込んで泳がせ、寄生虫を駆除する方法について学びました。</p>
	
<p>&lt;交流会&gt; 大学も学年も異なった学生同士がお互いのことについて話しながら交流を深めるとともに、学生と教職員間での交流も盛んに行われました。</p>	<p>&lt;作物(牛のエサ)の秘密を探る&gt; 作物生産精密圃場および実験室においてトウモロコシ(食用・飼料用)の観察・分析を通じた比較を行い、飼料作物の生産について理解を深めました。</p>
	
<p>&lt;家畜の体の仕組み&gt; ニワトリを解体してその体の仕組みを観察するとともに、食肉として加工するための鶏肉を準備しました。</p>	<p>&lt;鶏肉の加工&gt; 食品製造実習工場施設において、自分たちが解体した鶏肉を原料として用いたソーセージの製造を行いました。</p>
	
<p>&lt;ヨーグルト作り&gt; ヨーグルトやフレッシュチーズ作りを通して、ミルクが凝固してこれらの食品ができる仕組みやその健康への有用性について学びました。</p>	<p>&lt;牛乳が食卓に上るまで&gt; 販売されている牛乳の種類や殺菌方法の違い、実際の流通経路について学ぶことで、家畜(生産現場)から牛乳が作られ、消費者のもとへ届くまでの過程について理解を深めました。</p>
	
<p>&lt;体験発表会&gt; 3泊4日の演習を通して、各班がテーマに対する思いの考えを発表しました。</p>	<p>&lt;修了証書授与式&gt; 発表会後に谷口センター長から修了証書の授与が行われました。</p>